

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

2024 年改訂版 多様性に配慮した循環器診療ガイドライン

日本循環器学会, 日本心臓病学会, 日本心臓リハビリテーション学会, 日本胸部外科学会 合同研究班(班長 塚田(哲翁) 弥生 日本医科大学大学院医学研究科総合診療・健康科学)

2024 年 3 月 8 日発行

推奨の強さ

「実施する」ことを推奨する: 介入支持の強い推奨

「実施する」ことを提案(条件付きで推奨)する: 介入支持の条件付き(弱い)推奨

「実施しない」ことを提案(条件付きで推奨)する: 介入反対の条件付き(弱い)推奨

「実施しない」ことを推奨する: 介入反対の強い推奨

エビデンスの確実性

A 高い 効果の推定値の確実性は高い

B 中程度 効果の推定値の確実性は中程度である

C 低い 効果の推定の確実性は低い

D 非常に低い 効果の推定の確実性は非常に低い

Minds 掲載 有

■1 漢方薬

疾患:

女性更年期障害

有効性に関する記載ないしその要約:

『BQ 3 性ホルモンの動態はどのようなものか? 心血管系に影響するか?』の解説の中で『5. ホルモン補充療法』の項に以下の記載がある。

『女性更年期障害への対応として生活習慣の改善, カウンセリング, 認知行動療法, 漢方薬が考慮される』